



11月上旬、タイで最も人気があり最も美しいとされる、光と水の祭典「ロイクラトン祭り(灯籠流し)」が終わり、バンコク市内のショッピングモールに大きなクリスマスツリーが輝く時期になった。今年も残りわずかとなり、2022年のタイの出来事を十大ニュースで振り返ってみた。

1位は新型コロナウイルス感染が落ち着き、9月末に発表された「非常事態宣言の終了」。7月にタイ入国許可証「タイランドパス」が廃止となり、最近では入国審査に2時間待たされることも。それだけ観光客が戻っている証でもある。2位は「16年ぶりのバツアン」。円はドルに対し32年ぶりの円安水準となったが、タイにおいてもバツはドルに対し大きく下

タイ 今年の十大ニュース

コロナ禍から観光復活



筆者が選んだタイの2022年の十大ニュース

高生の大麻の吸引がクローズアップされ、解禁の賛否が分かれています。4位は「10年ぶりの都知事選」。14年の軍事クーデターで選挙が中止となっていたが、インラック政権(11~14年)で運輸相を務めたチャチャート・シテイパン氏が当選した。同氏は行動的な人物で、既に環境事業のてこ入れを始めている。

5位は「サウジアラビアとの関係修復」。タイ人による宝石窃盗事件に端を発する敵対的外交関係に終止符が打たれ、約30年ぶりに関係が正常化。タイ人労働者は再びサウジアラビアで働く機会

を得たことに加え、観光や石油化学などの分野で新たな協力も可能になった。6位はタイ料理「カオニャオ・マムアン(もち米&マンガール)の文化遺産申請」。米国で開催された音楽芸術祭で、タイ人女性ラッパーがステージ上でカオニャオ・マムアンを食べ、世界から注目を浴びた。

今年のえと「壬寅(みずのえとら)は、「陽氣を孕(はら)み、春の胎動を助く」といわれている。タイは見事に観光立国として立ち直り、世界各国からの投資も再開しつつある。

来年は「癸卯(みずのと)の年。『癸』と『卯』の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になるといわれている。タイが多くの観光客でにぎわい、活気に満ちた1年になることを信じて新年を迎えたい。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)